



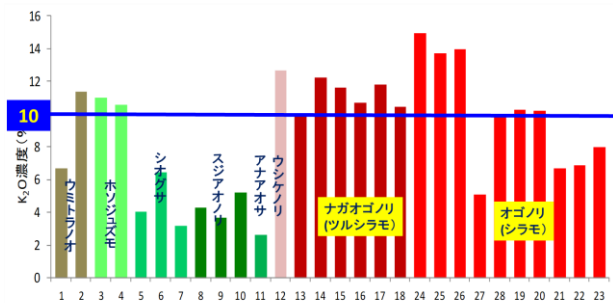
中海から回収される海藻の有機質肥料としての利用

生物資源科学部 教授 松本 真悟

中海では1950年頃まで自生する海藻類を肥料原料として採取していましたが、化学肥料の普及や農業形態の変化からその採取量は激減しました。現在では、繁茂した海藻が湖岸に打ち上げられて腐敗したり、ヘドロ化することで起こる水質悪化が問題になっています。一方、近年の肥料価格の高騰やカーボンニュートラルの観点から化学肥料の使用をできるだけ削減する農業技術が求められており、農林水産省が推進している「みどりの食料システム戦略」では未利用有機資源の効率的な利用が掲げられました。そこで、中海の海藻類が有機質肥料資源として改めて見直されています。これまでの私たちの調査から、中海に多く生息している紅藻類のナガオゴノリとオゴノリにはカリウムが約10%含有していることが明らかになりました。既存の有機質肥料のカリウム濃度は1%未満のものが圧倒的に多いため、中海のオゴノリなどは極めて有用な資源と考えられます。私たちはこれらの海藻類の肥料化に成功しており、中海の水質の浄化と海藻資源の有効活用を積極的に進めています。



海藻の成分組成(個体別のカリウム濃度)



繁茂する時期 初夏:ウミトリアオ、ホソジズモ、シオグサ
 夏:アナアオサ(年により異なる)
 夏-秋:ナガオゴノリ、オゴノリ

